

涼をもとめて

『稲妻と雷の図鑑』 吉田 智／編著 グラフィック社 451.73



夏に向けて多くなる雷。美しくもあり、怖くもあり、実際はなかなか注視できるものではありません。かわりに、この本でその姿をじっくりと眺めてみてはいかがでしょうか。雷はどうやって発生するのか、世界の中で雷の多い地域はどこかなど、気象庁の研究官である著者が専門的解説とともにたくさんの雷を紹介しています。神秘的にも見える雷の写真から涼しさを感じられるのではないのでしょうか。

『世界一美しい透明スイーツレシピ』 tomei／著 KADOKAWA 596.6ト

ゼリーでできたケーキにタルト、ソーダドリンクや琥珀糖など、目にも涼やかな透明スイーツばかりが並ぶ、まるで写真集のように美しいレシピ本です。眺めるだけでも楽しい透明スイーツたちの写真は、フォトグラファーでもある著者が撮影したもの。透明スイーツと器の合わせ方、写真の撮り方なども併せて紹介されています。

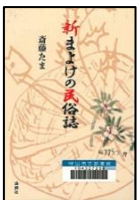


『営繕かるかや怪異譚』 小野 不由美／著 KADOKAWA 913.6オ

誰もいないはずの屋根裏から足音がする、襖が勝手に開く…。そのような怪現象が自分の家で起こり、この物語に登場する住人たちを怖がらせ悩ませます。住人から相談された営繕屋の若い男、尾端おぼなが彼ならではの方法で解決に導きます。本書は全6編からなる連作短編集。どの物語も怖いのですが、亡くなった人の想いに寄り添う尾端の言動にどこかほっと優しい感じもあり、ホラーは苦手という方も読んでみてください。



『新まよけの民俗誌』 斎藤 たま／著 論創社 387サ



この本は、各地に伝わる「まよけ」の風習を丹念に拾い集め、調査カードの形で聞き取り、後にまとめた採録本です。例えば「生ぐさ」の項では、二歳ぐらいまでの子が死んだ時、墓に鎌を立て、子の口に鯛をくわえさせて葬るとあります。そんな「まよけ」はとんだ迷信話と思いつつも、深い穴の底をのぞき込んだようなぞくとした空気を感じ、今もその時の情景が頭をさらないと紹介されています。他にもぞくつとするような「まよけ」が数多く掲載されていますので、興味のある方はお読みください。

『滋賀怪談 近江奇譚』 旭堂 南湖きょくどうなんこ／著 竹書房 S913.6キ

本書は滋賀県出身の講談師・旭堂南湖きょくどうなんこが、滋賀に住む人や滋賀に縁のある人の実体験を聞き、それらを書き綴った怪談本です。狸に化かされたような不可思議な「信楽の狸」、飛び出し坊やにまつわる奇妙な「飛び出し坊や奇譚」、自宅の床下から出てきたものにゾットする「床下の明神石」など30編余りを収録。背筋が冷たくなるような話から思いがけずほっこりする話まで、滋賀県各地の様々な怪談奇譚を堪能できます。

